

# 心もおなかもぬくまる 子どもの居場所づくり

## 岩手県花巻市 花巻RCぬくまる食堂実行委員会

2016年1月「NPO法人インクルいわて」岩手県初の「子ども食堂」オープンを知った花巻ロータリークラブ（以下RC）会員が寄付をした縁から理事長の山屋氏を講師に招き、2017年2月にRCの地域合同研修会であるインターシティーティング（花巻・北上・水沢）を開催しました。

山屋氏の講演では核家族が進んだ上に離婚率が上昇した日本は子どもの相対的貧困率が主要先進国36カ国中24位と意外に高い水準ですが、その中でもひとり親世帯ではダブルワーク、トリプルワークで子育てに時間をかけられない親も多く、子どもの欠食や孤食等が大きな社会問題となっていること、および満足な食事がとれない、子どもが希望しても進学を断念する（十分な教育を受けることが

できない）、（学歴等で）就業ができないなど、子どもの貧困は「周りのみんなにとっては当たり前前の生活が自分にはできない」（食事、部活動、進学等）ことを意味し、子どもに精神的なダメージを与え、大人になってもこの環境から抜け出せず「貧困の連鎖」を引き起こす結果となっていることを知りました。

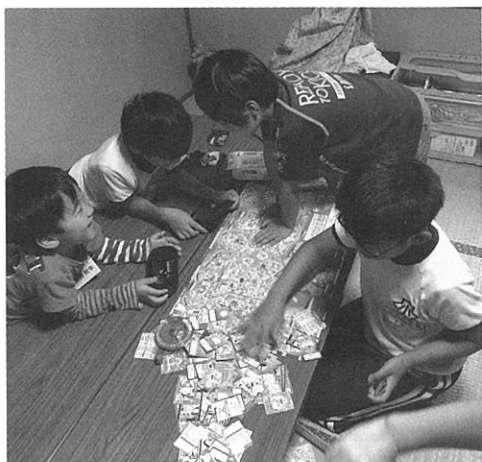
また、ぼんやりと「子どもたちが食事や学習支援を受ける場所」と思っていた子ども食堂には、貧困状態にある子どもたちや親御さんの居場所をつくることで、虐待、ネグレクトなどの重大リスクの発見や、育児や生活の悩み相談のきっかけになり、公的援助につながる側面もあるとのことでした。

クラブ内で「新たな地域づくりの一つとして花巻にも子ども食堂を立ち上げよう」との



ぬくまる食堂プレオープンの様子





宿題を終えて遊びの時間



遊ぶ前にはまず宿題

機運が高まり、2017年8月より準備委員会を立ち上げ、花巻市内の小中学校を訪問してヒアリングし、色々な解決すべき課題と共に『目に見える貧困は少ないが、地域とのつながりが希薄な家庭で潜在的な貧困があり、支援を必要としている』という調査結果を得て、2018年2月に花巻ロータリークラブ主催、花巻市社会福祉協議会共催の実行委員会を結成、子どもたちが気軽に集まり、家庭的な雰囲気で作りの食事を食べたり、遊んだり、勉強をする等、安心して過ごすことができる場所、また問題を抱えた親子が様々な相談ができる機能を持ち合わせた「地域の居場所づくり」を目的とし、貧困対策のイメージが強い子ども食堂という名称ではなく、誰でも心もお腹もいっぱいになるあったかい場所にしたいという願いを込めて「ぬくまる食堂」という名称とすることしました。

開催場所は花巻市社会福祉協議会が保有している市役所近くのサテライトスペースを借り、2月にキッチンや備品、のぼりやのれん、スタッフエプロンなどを購入準備し、3月に試食会や学童を招いての3日間のプレオープンでの反省点を踏まえて5月から本格オープンしました。毎月、第2、第4火曜日の2回、15時30分～19時30分の間、宿題の見守り、将棋やおセロ、バルーンアートの得意な会員が技を伝授したり、カードやボードゲームで遊



待ちに待った食事の時間。この日はフランスからの留学生も参加

んだ後は、ボランティアスタッフの手料理をみんなで配膳していただきます。

開設当初は一桁台の参加人数も徐々に増え、2020年1月まで「子ども食堂」を35回開催、延べ752名の子どもたちが参加しました。その他にも長期休みには子どもたちの探求心を伸ばそうと「ぬくまるアカデミー」科学・工作教室を計5回開催、アイスクリームづくり、望遠鏡づくり、自動トレース車プログラム体験、ガラスビーズ顕微鏡、静電気実験には延べ191名参加しました。

段々と口コミで参加者が増え、場所も手狭



地元の高校生が講師になっためくまるアカデミー  
「センサー自動車組立とプログラミング」



寄付された食材を使ってボランティアさんの手作り料理

になってきた矢先、コロナパンデミック禍によって子どもたちの健康を守る3密回避のため、2020年2月から子ども食堂を休止しましたが、学校も休みになり、給食がないと十分な栄養が摂れなかったり、土日でおにぎり1個しか食べていない子どもがいるとの情報が入り、3月から個別の支援をしています。6月より子育て世帯を食料支援するフードパントリーを開始しました。

当初は、地元企業の寄付やフードバンクの支援で25世帯から始めましたが、報道を観た個人やJAいわて花巻様、いわてブルージャ盛岡様とそのスポンサーの皆様、明治安田生命様やホンダ労働組合様など多くの企業からの寄付が集まり、コープの支援品割引制度や国際ロータリーのコロナ救援資金も活用し、1回で70世帯から80世帯の支援まで規模を拡大、2022年8月まで計29回開催、延べ1671世帯を支援しています。

フードパントリーは子ども食堂に比べると10倍近い経費と多くの食材が必要であり、それらの寄付を集め、仕分ける作業も大変で正直楽ではありません。しかし、スタッフに涙を浮かべながら感謝の気持ちを伝えてくれるお母さんたちの姿や子どもたちの喜ぶ顔や弾んだ声に接することができ、ロータリーの『超我の奉仕』の精神を実感したという会員も多くおり、楽ではないけど楽しい活動となつて

います。

これから、このめくまる食堂やフードパントリーに来てくれた子どもたちが、すくすくと育ち、今度は自分たちが誰かのために一歩を踏み出す日が来る。そんなことを夢見て活動しています。

(2021～2022 花巻RCC会長

橋川 秀治)



めくまるアカデミー後の写真 (最後列中央が筆者)